

## シール式アンケートを利用した来館者動向調査と 博物館マーケティング上の意義

神奈川県立生命の星・地球博物館 佐藤 武宏

### はじめに

多くの博物館では、来館者の年齢構成、グループ構成、来館のきっかけ、来館の目的、来館時の交通手段、博物館に対する満足度などを把握するために、来館者に対してアンケート等による調査を実施しており、中にはミュージアムパーク茨城県自然博物館のように開館以来20年以上も継続して同じような調査項目で調査を行っている館も存在する（鈴木・小幡, 2015）。神奈川県立生命の星・地球博物館（以下、当館）でも対面式のアンケートを実施しており、その結果は年報で公開をしている（e. g. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 2018）。

アンケート調査は来館者の基礎的情報、博物館に対する評価、ニーズなどの情報を来館者から得る強力なツールではあるが、実施と集計にあたっては、対面式であれば館員の膨大な時間と労力または調査委託の費用が必要になり、記入投函式であれば準備や管理等に対する手配が必要になる。多大な時間、労力、場所、手間と場合によっては費用を必要とする割には、得られる回答の数は少数に留まることが多く、かなり項目数の多い質問内容を聞き取りによって調査した北海道博物館の例では、16名のインタビュアーに対して回答は33名に留まっており（栗原ほか, 2018）、いかに対面式アンケートに労力と時間がかかるかを示している。また、アンケートによって得られる回答の数は来館者の総数に比較して必ずしも充分でないことが多く、例えば当館で2018年に2日間にわたって実施した対面式アンケートでは、2日間の来館者総数約5,000人に対して、有効回答数は約200件と来館者全体の約4%に留まっている（神奈川県立生命の星・地球博物館, 2018）。来館者アンケートを大掛かりなプロジェクトと位置づけて実施するような場合でも当然悉皆調査という状況には至り得ず、例えば2013年に相模原市立博物館で実施された来館者調査のように相当大掛かりな調査であっても、来館者総数に対する有効回答数は10%程度に留まる（向井ほか,

2014）。これは、来館者の協力によって成立するアンケートという調査方法の限界といえよう。しかし、博物館に対する満足度やニーズのような来館者の意見を吸い上げるタイプの設問と異なり、来館者の年齢や性別、居住地といった来館者属性や、博物館を知った方法や来館手段といった事実を集約するタイプの設問であれば回答は択一的になることが普通であるため、アンケートのしくみを単純化することによって来館者総数に対する有効回答の割合を上げることが可能であると考えられる。

今回、当館では、質問内容を唯一、来館者の居住地のみに絞り、シール式アンケートを実施することによってその有効性について考察を行った。シール式アンケートは、回答者が設問に対する回答に対応する欄にシールを1枚貼付するタイプのアンケートであり、当館では2015年の特別展期間に小中学生を対象に居住地を問うアンケートを実施している（神奈川県立生命の星・地球博物館, 2016）。来館者の居住地は、博物館を知った方法、来館手段と同様に、博物館からの情報発信の方法や広報の範囲をどのように設定するかという広報計画に密接に結びつくと考えられる。博物館を知った方法や来館手段は複数の選択肢も想定し得るが、居住地は通常は一ヶ所であり、回答者が悩む余地なく択一的に回答できるという特徴を持つ。そのため、シンプルな調査を実施できると



図1 シール式アンケートの実施状況。

考え、この項目を調査対象として選択した。今回のシール式アンケートの有効性を考察すると同時に、試行的に実施した結果についても限定的ではあるが考察したい。

## 方法

団体の効果によって結果が特定の選択肢に集中してしまうことを避けるため、調査は多客期中でも団体以外の一般来館者が多い2018年3月24日～31日の7日間（以下、春休前期）、4月1日～8日の7日間（以下、春休後期）、4月28日～5月6日の9日間（以下、GW期）、8月10日～16日の7日間（以下、盆休期）の4回実施した。

当館展示室入口のチェックカウンター奥に、高さ209cm×幅90cmのポスターボードを5基設置し、それぞれのボードにポスターを1枚ずつ、合計5枚掲示した（図1）。1枚目のポスターにはアンケートの趣旨と回答方法を明記し、残りの4枚のポスターには、それぞれ「小田原市内の26地区（自治会連合会の地区）」、「神奈川県内の政令市の区および市町村」、「日本国内の地方または都県」、「世界の国または大州」に対応した回答欄を設けた。日本国内のうち、来館者が多いと予想される関東地方の各都県と、神奈川県に隣接する山梨県と静岡県は、それぞれ都県単位で、それ以外は地方ごとに回答欄を設けた。国外については、日本政府観光局が集計している訪日外客数統計の上位17位までの国と地域（日本政府観光局、2018）を個別に、それ以外は大州ごとに回答欄を設けた。

回答用のシールは1枚目の趣旨説明ポスターに設置した。シールの予備はポスターボードの裏側に準備し、来館者からシール不足を指摘された場合には総合案内員が補充し、予備の在庫もなくなった場合には、企画普及課の職員が予備を補充した。

いたずら対策としては、総合案内員に目配り、声掛けを依頼したが、実際にいたずら対応を実施することはほとんどなかった。

調査期間が終了した後、ポスターを回収し、シールの枚数を計数して集計した。集計に当たっては、調査期間内の入館者数（V）、シール貼付枚数（N）から入館者数に対するシール貼付枚数の割合（R）を、 $R=N/V$ によって求めた。当館の来館者数はここ数年30万人前後で推移しているため

（e. g. 神奈川県立生命の星・地球博物館、2018）年間来館者を300,000人と仮定したときのシール貼付枚数の割合（R）から産出される推計来館者数（E）を、 $E=300,000 \times R$ によって求めた。市区町村の2018年10月1日現在の推計人口（P）から（神奈川県統計センター、2018b）、各市区町村の人口1万人当たりの推計年間来館者数（VI）を、 $VI=10,000 \times E/P$ によって求めた。また、この値VIを来館指数と定義した。各市区町村から博物館までの距離によって来館指数が変化することが予想されるため、各市区町村役所から当館までの直線距離（D）、各市区町村役所最寄りの駅（駅のない市区町村は最寄りのバス停留所）から当館最寄りの駅である入生田駅までの道程（J）を求め、それぞれの関係について検討した。

## 結果

調査を実施した春休前期、春休後期、GW期、盆休期の期間内開館日数、入館者数（V）、シール貼付枚数（N）、入館者数に対するシール貼付枚数の割合（R）を表1にまとめた。期間内において入館者数に対するシール貼付枚数の割合（R）は20.14～28.01%の間で推移したが、各市区町村に関して比較を行う際には全期間をまとめて扱った。

各市区町村の結果について、全期間のシール貼付枚数（N）、シール全数に対する各市区町村のシール総数の割合（R）、各市区町村の2018年10月1日現在の推計人口（P）、年間来館者を300,000人と仮定したときのシール総数の割合から産出される推計来館者数（E）、来館指数すなわち各市区町村の人口1万人当たりの推計来館者数（VI）、各市区町村役所から神奈川県立生命の星・地球博物館までの直線距離（D）、各市区町村役所最寄りの駅（駅のない市区町村は最寄りのバス停留所）から入生田駅までの道程（J）を表2に示した。

シール貼付枚数（N）が多かった市区町村は、上位から順に、小田原市（565枚）、藤沢市（437枚）、平塚市（339枚）、茅ヶ崎市（289枚）、厚木市（229枚）、秦野市（216枚）であった。年間推計来館者（E）はシール貼付枚数（N）に単純に比例するので、順番も同じになるが、年間1万人以上と推計されたのは小田原市（14,800人）と藤沢市（11,447人）のみに

表1. シール式アンケートを実施した4期間の概要.

期間名		春休前期	春休後期	GW期	盆休期	合計
実施期間		2018/3/24~3/31	2018/4/1~4/8	2018/4/28~5/6	2018/8/10~8/16	
期間内開館日数		7	7	9	7	30
入館者数(人)	V	8,315	6,307	14,800	16,589	46,011
シール貼付枚数(枚)	N	1,766	1,270	3,770	4,647	11,453
シール貼付割合(%)	R	21.24	20.14	25.47	28.01	24.89

V: エントランスに設置されたカウンタによって計数された入館者数(人);N: シール貼付枚数(枚);R: 入館者数に対するシール貼付枚数の割合(%).

表2. シール式アンケートによって得られた各市区町村ごとの結果.

政令市・地域 市区町村	シール数 N	割合 R	推計人口 P	推計来館者 E	来館指数 VI	距離 D	道程 J	政令市・地域 市区町村	シール数 N	割合 R	推計人口 P	推計来館者 E	来館指数 VI	距離 D	道程 J
神奈川県	6,492	56.68	9,179,835	170,052	185			県央地域	713	6.23	850,260	18,676	220		
横浜市	1,882	16.43	3,740,172	49,297	132			厚木市	229	2.00	225,204	5,998	266	31.49	41.3
鶴見区	113	0.99	290,860	2,960	102	59.03	66.4	大和市	144	1.26	235,846	3,772	160	41.15	51.4
神奈川区	92	0.80	243,416	2,410	99	53.11	61.1	海老名市	155	1.35	132,641	4,060	306	33.58	44.2
西区	64	0.56	102,141	1,676	164	50.86	59.3	座間市	94	0.82	129,425	2,462	190	37.98	47.5
中区	28	0.24	149,036	733	49	52.47	62.3	綾瀬市	57	0.50	84,229	1,493	177	35.40	50.6
南区	70	0.61	195,225	1,834	94	50.77	55.3	菱川町	31	0.27	39,772	812	204	36.96	54.1
保土ヶ谷区	91	0.79	205,568	2,384	116	49.56	56.3	清川村	3	0.03	3,143	79	250	30.47	54.3
磯子区	88	0.77	166,657	2,305	138	48.62	54.2	湘南地域	1,592	13.90	1,306,774	41,701	319		
金沢区	108	0.94	199,558	2,829	142	46.97	62.3	平塚市	339	2.96	258,004	8,880	344	23.29	24.3
港北区	190	1.66	351,111	4,977	142	55.85	67.2	藤沢市	437	3.82	431,286	11,447	265	35.31	37.0
戸塚区	170	1.48	278,975	4,453	160	41.44	47.2	茅ヶ崎市	289	2.52	242,003	7,570	313	27.69	29.5
港南区	122	1.07	213,952	3,196	149	46.37	53.6	秦野市	216	1.89	165,393	5,658	342	17.53	25.0
旭区	107	0.93	245,747	2,803	114	46.48	55.6	伊勢原市	151	1.32	102,470	3,955	386	25.30	34.5
緑区	111	0.97	181,523	2,908	160	48.47	65.3	寒川町	61	0.53	48,232	1,598	331	28.07	34.6
瀬谷区	67	0.58	122,828	1,755	143	42.53	53.3	大磯町	47	0.41	31,467	1,231	391	18.81	20.3
栄区	94	0.82	120,107	2,462	205	41.64	45.2	二宮町	52	0.45	27,919	1,362	488	13.90	15.0
泉区	108	0.94	152,459	2,829	186	38.79	47.4	県西地域	845	7.38	341,064	22,134	649		
青葉区	144	1.26	309,626	3,772	122	51.34	63.4	小田原市	565	4.93	191,181	14,800	774	3.99	4.2
都筑区	115	1.00	211,383	3,012	143	53.03	70.1	南足柄市	79	0.69	42,311	2,069	489	9.27	13.8
川崎市	660	5.76	1,516,483	17,288	114			中井町	23	0.20	9,453	602	637	13.47	23.9
川崎区	62	0.54	231,530	1,624	70	61.90	69.9	大井町	38	0.33	16,973	995	586	10.23	16.9
幸区	62	0.54	167,206	1,624	97	61.46	71.5	松田町	24	0.21	10,975	629	573	12.22	14.9
中原区	83	0.72	258,119	2,174	84	61.23	74.2	山北町	25	0.22	9,923	655	660	13.92	20.6
高津区	89	0.78	231,808	2,331	101	59.58	76.1	開成町	43	0.38	17,734	1,126	635	10.81	12.4
多摩区	99	0.86	217,941	2,593	119	58.15	71.5	箱根町	8	0.07	11,389	210	184	1.52	1.9
宮前区	142	1.24	231,131	3,720	161	56.84	70.8	真鶴町	14	0.12	6,960	367	527	9.10	16.1
麻生区	123	1.07	178,748	3,222	180	53.44	65.2	湯河原町	26	0.23	24,165	681	282	10.22	19.4
相模原市	402	3.51	723,012	10,530	146			国内(神奈川県除く)	4,783	41.76		125,286			
緑区	86	0.75	171,919	2,253	131	44.22	66.8	埼玉県	630	5.50	7,322,645	16,502	23		
中央区	143	1.25	271,873	3,746	138	43.42	61.4	千葉県	397	3.47	6,268,585	10,399	17		
南区	173	1.51	279,220	4,532	162	42.79	54.4	東京都	1,990	17.38	13,843,403	52,126	38		
横須賀三浦地域	398	3.48	702,070	10,425	148			山梨県	82	0.72	818,391	2,148	26		
横須賀市	184	1.61	397,618	4,820	121	50.22	57.5	静岡県	586	5.12	3,656,279	15,350	42		
鎌倉市	122	1.07	172,306	3,196	185	39.61	46.1	国外	178	1.55		4,663			
逗子市	47	0.41	57,125	1,231	216	42.14	50.0	総計	11,453	100.00		300,000			
三浦市	22	0.19	43,163	576	134	46.59	74.4								
葉山町	23	0.20	31,858	602	189	42.36	53.8								

N: 全期間のシール貼付枚数(枚);R: シール全数に対する各市区町村のシール総数の割合(%);P: 各市区町村の2018年10月1日現在の推計人口(人);E: 年間来館者を300,000人と仮定したときのシール総数の割合から算出される推計年間来館者数(人);VI: 各市区町村の人口1万人当たりの推計年間来館者数によって示される来館指数;D: 各市区町村役所から神奈川県立生命の星・地球博物館までの直線距離(km);J: 各市区町村役所最寄りの駅(またはバス停留所)から入生田駅までの道程(km).

留まった。神奈川県内各市区町村の2018年10月1日推計人口(P)と年間推計来館者数(E)の関係を図2に示したところ、それぞれの地区ごとに相関する傾向が認められた。そこで、それぞれの地区ごとに回帰直線( $E=kx$ )を求めたところ、係数(k)の値が高いものから順に、県

西( $k=0.074833$ )、湘南( $k=0.029893$ )、県央( $k=0.021798$ )、相模原( $k=0.014721$ )、横須賀三浦( $k=0.013311$ )、横浜( $k=0.013009$ )、川崎( $k=0.011201$ )となった。年間推計来館者数(E)は推計人口(P)に比例することが認められたので、各市区町村の人口1万人当たりの

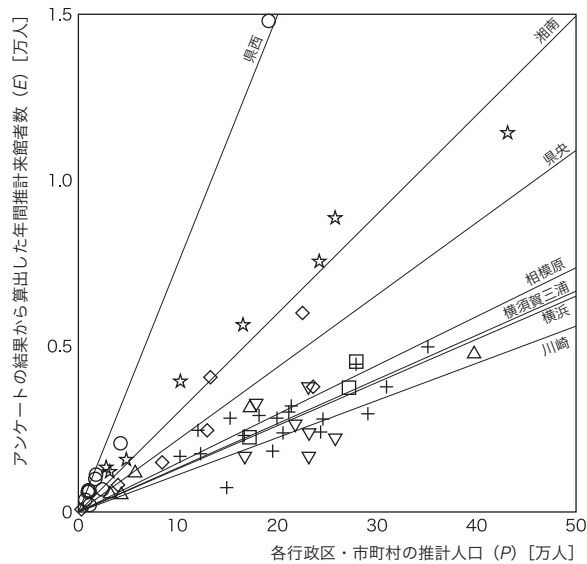


図2. 神奈川県内各市区町村の2018年10月1日推計人口 (P) とシール式アンケートの結果から算出した年間推計来館者数 (E) の関係。

+ : 横浜市 (18区) ; ▽ : 川崎市 (7区) ; □ : 相模原市 (3区) ; △ : 横須賀三浦地域 (4市1町) ; ◇ : 県央地域 (5市1町1村) ; ☆ : 湘南地域 (5市3町) ; ○ : 県西地域 (2市8町). 直線は各地域の回帰直線 ( $E=kx$ ) を示す。

推計来館者数 (VI) を、 $VI=10,000 \times E/P$  によって求め、この値VIを来館指数と定義した。得られた来館指数 (VI) を、VIの値が高いほど濃い色で表現し、県の地図にマッピングした (図3)。来館指数 (VI) は小田原市 (774) が最も高く、当館から距離が離れるほど低くなる傾向を示した。この傾向は、大西 (2017) によって示された、各市区町村の人口1万人あたりの当館友の会会員数と非常によく似ていた。

博物館への距離が来館の動機の要因になっているかを確認するために、各市区町村から当館への遠近 (直線距離 :D; 道程 :J) と来館指数 (VI) との関係を図4に示した。直線距離 (D) と来館指数 (VI) との関係 (図4a) では、箱根町と湯河原町を除き、距離が大きくなるほど来館指数が小さくなる傾向が示された。この傾向は道程 (J) と来館指数 (VI) との関係 (図4b) でも同様であったが、道程の場合には極端な外れ値を示したのは箱根町のみであった。

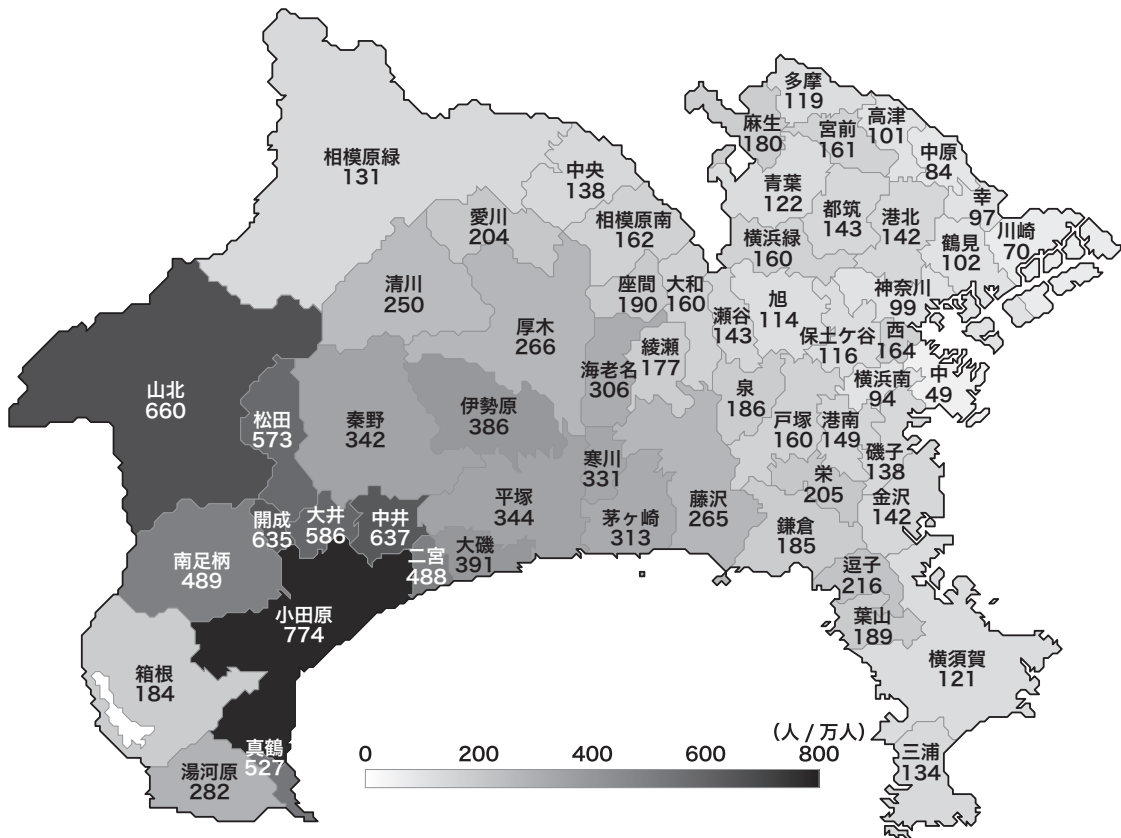


図3. 各市区町村の人口1万人当たりの推計来館者数 (VI) を県の地図にマッピングした図。VIの値が高いほど濃い色で示した。

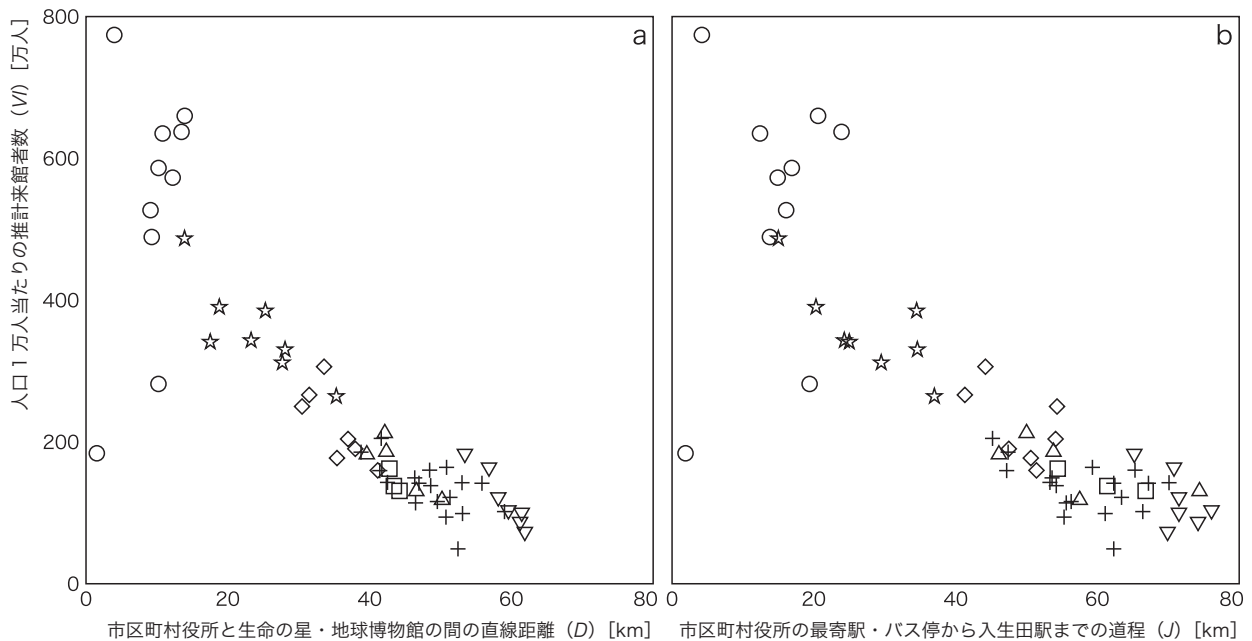


図4. 神奈川県立生命の星・地球博物館への遠近と来館指数との関係。

a: 神奈川県内各市区町村役所と神奈川県立生命の星・地球博物館との間の直線距離 (D) と各市区町村の人口1万人当たりの推計来館者数 (VI) との関係 ; b: 神奈川県内各市区町村役所の最寄り駅 (またはバス停留所) から入生田駅までの道程 (J) と各市区町村の人口1万人当たりの推計来館者数 (VI) との関係。 + : 横浜市 (18区) ; ▽ : 川崎市 (7区) ; □ : 相模原市 (3区) ; △ : 横須賀三浦地域 (4市1町) ; ◇ : 県央地域 (5市1町1村) ; ☆ : 湘南地域 (5市3町) ; ○ : 県西地域 (2市8町)。

### 考察

シール式アンケートの回答数から、来館者の約25%が調査に協力したことが判明した。この数字は、対面式のアンケート調査を実施した際の、来館者総数に対する有効回答数の割合である約4%程度（神奈川県立生命の星・地球博物館, 2018）や、それから予想される数字よりもはるかに高かった。しかも、ボードを設置した後は調査そのものにはほぼ手がかからず、必要な手間は定期的にシールを補充するだけであった。必要なコストもポスターの印刷とシールにかかる消耗品費のみに限られた。このことは調査項目をうまく選べば、非常に少ない労力とコストで多数のデータを集約することができることを示している。調査期間を長く取れば、ポスターの回答欄の更新や、ポスターの破損、汚損などに対する対応が発生するが、これも期間を適切に設定すれば労力を増やさずに済むだろう。

今回のシール式アンケートでは、小田原市内のどのエリアからの来館者が多いのかを把握したいという目的があったが、市内をいくつかの地域に分割する方法をうまく設定することができなかった。小田原市は市内を26の地区（自治会連合会の地区）に区分しているが、来館者にとっては自分自身が居住している場所の自治会は知っていて

も、その自治会が所属する自治会連合会の地区までは関心が薄かった例が多く、地区名に併記された町名を見て回答欄を確認する姿が多く見受けられたとのことである（総合案内員に対する聞き取りの結果）。また、人口約19万人の小田原市を26の地区に区分する方法は、統計処理を行うには少し細分し過ぎるような実感を抱いた。小田原市ではこの区分のほかに、市の人口統計等で用いられる6地区に区分する方法がある。しかし、この区分では、地区による人口や面積の偏りが著しいため、区分設定としての採用を見送った。このような偏りは県内の市区町村を回答区分とする際にも見られ、例えば、人口43万人を超える藤沢市と人口約3,000人の清川村を同列に扱うことが果たして適切なのか、よく検討する必要があると思われた。

各市区町村をより広域の地域ごとにまとめて比較する際にも、どのようなまとめ方をするかで評価が変わる可能性が見出された。今回は神奈川県内を3つの政令指定都市と4つの地域に区分する方法を採用したが、例えば湘南地域に区分される秦野市や伊勢原市は小田急線・国道246号線沿線に位置しており、交通流動的には厚木市や松田町との結びつきも強い。小田原は関東西部の交通の結節点ではあるが、そこに至るルートは大きく小

田急線・国道246号線と、東海道線・国道1号線ルートに分かれるため、交通流動をあまり考慮しない地域区分を用いて分析を行っても、来館者の流動を正しく把握できない可能性がある。

今回は2018年10月1日現在の推計人口をその市区町村の基礎データとして用いたが、その人口構成は市区町村によって大きく異なる。例えば「神奈川県年齢別人口統計調査結果」(神奈川県統計センター, 2018a)によれば、65歳以上の人口比は最も高い湯河原町で41.3%であるのに対し、最も低い川崎市中原区では15.3%に過ぎない。博物館はそれぞれの館によって主な対象年齢層が異なるため、単純に総人口の多寡によって来館者動向を比較することはかなり雑な議論になってしまう可能性がある。

さらに分析の問題となるものとして、博物館までの距離の指標が市区町村のプロファイルを正しく示していないという点が挙げられる。その例として最も顕著なものは箱根町の値であろう。箱根町の来館指数(VI)の値は当館までの距離(D)や道程(J)に対して極端に低い値を示した(図4a, b)。この原因の一つとして、箱根町役場の設置位置が挙げられる。箱根町の町役場は町域のほぼ東端の箱根湯本駅前に置かれているが、箱根町の人口重心ははるかに西側の彫刻の森駅付近に位置する(総務省統計局, 2017)。したがって、箱根町の当館までの距離や道程は実際よりも小さい値になり、市区町村全体の傾向から箱根町が大きく外れることに強く寄与したのであろう。同じような現象は例えば区域のほぼ東端に区役所が置かれている横浜市南区などでも認められたが、横浜市南区は当館からかなり遠くに位置しているため、誤差の影響がほとんど表われなかったのだろう。

もう一つ、距離(D)と道程(J)が大きく異なる値を示す場合があるという点も、分析を混乱させる要因として挙げられる。鉄道やバスなどの公共交通網が比較的良好に発達している神奈川県では、多くの場合、発着地間の交通ルートは最短距離であるほぼ直線上を經由するため、距離(D)と道程(J)の比率(J/D値)は1をやや超える値に留まる。しかし、間に海を挟む三浦市(J/D=1.597)や、鉄道駅を持たない清川村(J/D=1.782)や中井町(J/D=1.774)、鉄道の線形によって直線距離から大きく遠回りする湯河原町(J/D=1.898)や真鶴町(J/D=1.769)、乗換駅が

逆戻りする方向に位置する大井町(J/D=1.652)などの市町村では、距離(D)と道程(J)の比率(J/D値)が1.5を超える値を示した。県西部の市町村では鉄道よりも自家用車を利用して来館する傾向が高いので、実際には高いJ/D比は大きな問題にはならないのかもしれないが、間に海を挟む三浦市や道路であっても大回りを余儀なくされる湯河原町や真鶴町からの来館者動向を検討する際には、この点を特に考慮する必要があると思われる。

神奈川県は東京オリンピック2020に向け、インバウンド対応に力を注いでいる。そこで、外国人来館者対応について考察をした。

観光庁(2011)の調査によれば、外国人観光客の約25%が日本の博物館・美術館に興味・関心が「とてもある」と、約38%が「少しはある」と回答している。日本の博物館・美術館の中で興味・関心のある分野をさらに尋ねると、美術・工芸品が約50%で最も高く、次いで歴史が約47%、自然や生物が約38%と続く。2017年の訪日外客数は約2,870万人に達しており(日本政府観光局, 2018)、この数字から計算すると687万の外国人観光客が日本の自然史系博物館に興味関心が「ある」ということになる。

神奈川県に注目すると、訪問率と訪日外客数から推算される訪県外客数は約230万人とされる(訪日ラボ, 2018)。また、神奈川県(2017)の調査によると、神奈川県を訪れた外国人観光客のうち約8%が主な訪問目的を美術館・博物館としている。このことから、訪日外国人のうち約18万人が神奈川県の博物館を主な目的地としているということが推計される。ここで、日本全体を対象とした調査(観光庁, 2011)と同様に、全体の約3分の1が自然史系博物館に興味を持っていると仮定すれば、神奈川県の自然史系博物館は6万人程度の外国人来館者を期待できる市場を持っていると言えることができる。

しかし、今回の調査から推計される、外国人来館者の数は年間4,600人程度であり、潜在的な市場規模の10分の1にも満たない。外国人来館者を増やすためには、展示や案内の多言語化や、外国人来館者を意識した広報活動がより必要になってくると考えられる。

当館でも他の多くの館と同様に、印刷物、冊子体、マスメディア、インターネットメディアなど

を利用して広報活動を展開しているが、その予算は年々縮小を余儀なくされている。予算以外にも解決すべき問題として、広報の効果が十分に測定・検討されていないという点が挙げられる（佐藤, 2017）。限られた予算を使って効果的に広報を展開する上で、どの地域にどれだけリソースを費やすかという検討は今後ますます重要になってくると考えられるため（佐藤, 2017）、手間のかからないシール式アンケートによる基礎データ蓄積は、博物館マーケティング上、大きな意義を持つと考えられる。

## 課題

今回のシール式アンケートは、団体の少ない多客期である長期休暇の時期に実施した。団体の多い時期に短い調査期間で実施すると、団体によるバイアスが大きくなり、正確な来館者動向を反映しないということが考えられる。また、日本人にはそれほど馴染みがなくとも、春節（中華圏の旧正月）やソングクラン（タイの旧正月）など、特定の地域からの観光客がまとまって来日する時期などに実施すると、正確な外国人来館者動態を把握できない可能性がある。

今回のシール式アンケートは、当館単独で実施したものであるため、博物館の分野による違いや、地域による違いを検討することはできない。これらの点を明らかにしたり、交通流動と来館者流動の関係について全県的に調査したり、外国人来館者動態を把握しようとしたりする場合には、期間と項目を統一して多くの博物館が一斉に調査をするなどの工夫が必要になってくると考えられる。そのことを実現する一つの方法として、県博協加盟館園が協力して実施するなどの案も検討に値するだろう。

## 謝辞

シール式アンケートの実施と分析にあたっては、神奈川県立生命の星・地球博物館企画普及課員（田口公則・石浜佐栄子・城所由佳（2017年度）・中村友美子（2018年度）・平賀保彦・芝山一彦・勝山輝男・本杉弥生）および総合案内員の協力を得た。神奈川県博物館協会会報編集者からは、原稿に対して丁寧なコメントをいただいた。記して深謝申し上げる。

## 文献

- 訪日ラポ, 2018. online. 神奈川県インバウンド需要. <https://honichi.com/areas/kanto/kanagawa/> (accessed on 2018-11-15; last confirmed on 2019-2-12)
- 神奈川県, 2018. online. 神奈川県外国人観光客実態調査調査報告書. <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/b6m/cnt/documents/29.pdf> (accessed on 2018-11-15; last confirmed on 2019-2-12)
- 神奈川県立生命の星・地球博物館, 2016. 神奈川県立生命の星・地球博物館年報第21号（2015年度）. 126pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 神奈川県小田原市.
- 神奈川県立生命の星・地球博物館, 2018. 神奈川県立生命の星・地球博物館年報第23号（2017年度）. 132pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 神奈川県小田原市.
- 神奈川県統計センター, 2018a. online. 神奈川県年齢別人口統計調査結果. <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/x6z/tc30/jinko/nenreibetu.html> (accessed on 2018-11-15; last confirmed on 2019-2-12)
- 神奈川県統計センター, 2018b. online. 神奈川県人口統計調査公表資料. <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/x6z/tc30/jinko/kohyosiryu.html> (accessed on 2018-11-15; last confirmed on 2019-2-12)
- 観光庁, 2011. online. 博物館等の文化施設における外国人旅行者の受入に関する調査業務報告書. <http://www.mlit.go.jp/kankochu/siryuu/archive/20110325.html> (accessed on 2018-11-15; last confirmed on 2019-2-12)
- 栗原憲一・池田貴夫・堀繁久, 2018. 来館者調査からみる北海道博物館の総合展示室およびはっけん広場の現状と課題. 北海道博物館研究紀要, (3) : 201-218.
- 向井優善・美濃部久美子・小出雄空明・白井暁彦・木村知之, 2014. 博物館ネットワーク事業：相模原市立博物館の来館者調査. 相模原市立博物館研究報告, (22) : 73-76.
- 日本政府観光局, 2018. online. 月別・年別統計データ（訪日外国人・出国日本人）. [https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor\\_trends/](https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/) (accessed on 2018-11-15; last confirmed on 2019-2-12)
- 大西亘, 2017. 生命の星・地球博物館は“地域博物館”の夢を見るか？—友の会会員分布から見た博物館利用者の一側面. 生命の星・地球博物館友の会20周年記念誌編集委員会（編）, 友の会で語る博物館の楽しみ方—博物館友の会20周年記念誌—. pp.142-144. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会, 神奈川県小田原市.
- 佐藤武宏, 2017. 神奈川県立生命の星・地球博物館の広報の現状と展望. 科学EYES, 59 (1) : 8-15.
- 鈴木肇・小幡和男, 2015. ミュージアムパーク茨城県自然博物館の来館者の意識と動向—アンケート調査からみる20年の奇跡—. 茨城県自然博物館研究報告, (18) : 119-125.
- 総務省統計局, 2017. online. 各都道府県及び市区町村の人口重心. 総務省統計局（編）, 統計トピックス No. 102 我が国の人口重心—平成27年国勢調査結果から—. <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/topics/topi102.html> (accessed on 2018-11-15; last confirmed on 2019-2-12)